

植物保全戦略：植物と動物の関係シンポジウム

「森と樹上棲リスたちの関係」



植物保全戦略は2010年に名古屋のCOP10(第10回生物多様性条約締約国会議)で2020年目標が決められました。その中で生物多様性の損失に歯止めをかけるための努力の促進が言われています。そのためには、植物からの側面だけでなく、植物と利用し、共生している動物たちとの関係にも注目する必要があります。北半球の森に棲む様々な樹上棲リスたちからみた植物と動物の関係を話し合ってみましょう。



Miki Okubo



Yusuke Iwasaki



Takeo Kawamichi

開催日時：2012年 2月5日(日) 13:00-17:00 (開場12時半)

場所：聞法会館(もんぼうかいかん)

京都市下京区堀川通花屋町上ル(西本願寺北側) <http://monbou.jp>

主催：生物多様性JAPAN・第6回国際樹上棲リス会議

お申し込み：2月4日までにメール chipmunk@h5.dion.ne.jp か FAX075-551-3936で
参加費無料 定員100名 当日連絡先 090-6076-7655(川道)まで

プログラム：英語講演には逐語訳通訳がつきます(通訳 高橋満彦氏)

開場 12:30

13:00-13:05 開会の挨拶

13:05-13:35 「世界植物保全戦略と日本列島の自然」

岩槻邦男氏(生物多様性JAPAN・兵庫県立人と自然の博物館館長)

13:35-14:20 「生態系の機能と樹上棲リスの価値：森林内部で果たす多くの役割」

J. コプロフスキー氏(アリゾナ大学教授 アメリカ)

14:20-15:05 「食べ尽くすか、それとも探索に出るか。インドオオリス、採食のジレンマ」

R. ボルグス氏(バンガロール科学研究所教授 インド)

15:05-15:15 休憩

15:15-16:00 「森林管理とタイリクモモンガ保護の対立」

V. セローネン氏(ツルク大学 フィンランド)

16:00-16:30 「社寺の森に生かされるムササビたち」

川道武男氏(関西野生生物研究所)

16:30-16:55 討論

16:55 閉会の挨拶

ご参加の皆様には当日のプログラムの他に

「植物保全戦略解説の冊子」

国際樹上棲リス会議制作のエコバックをさしあげます



本シンポジウムは平成23年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催されます

協力 リス・ムササビ ネットワーク <http://www.rimUNET.jp/>・独立行政法人 森林総合研究所・関西野生生物研究所・
聞法会館・IUCN日本プロジェクトオフィス・シニア自然大学校